

変わる日本の「暮らし」と「まち」

人、まち、社会がつながるビル
「大手町プレイス」誕生

大手町二丁目地区
第一種市街地再開発事業
(2013年・平成25年)

阿部民子

text by Tamiko Aoe

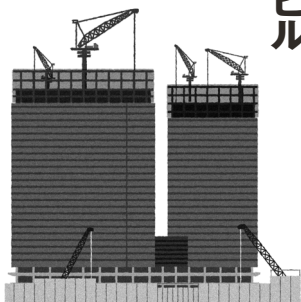


illustration: Shigeyuki Sakata

東京駅の西側に広がる大手町。その名前は、かつて江戸城の正門であった、皇居の大手門に由来する。江戸時代には大名屋敷が軒を連ね、明治維新後は、日本の行政・文化の中心地として発展。い

までは、金融や報道、通信など名だたる企業の本社ビルが立ち並び、気象庁や東京消防庁などの公共中枢機関も数多く存在する、日本を代表するオフィスビル街になっている。

そのエリアが、いま大きく生まれ変わりつつある。高度経済成長

期に建設された高層ビルの多くが老朽化を迎える時期でもあり、地区全体での大規模な再開発が進行しているのだ。

ビルを通して人とまちをつなぐ

再開発が進む中の1つが、大手町地区の一番東に位置する大手町二丁目地区だ。明治期には、赤レンガづくりの旧大蔵省印刷局の印刷工場が操業。その後は、通信総合博物館（ていぱく）や東京郵政局、東京国際郵便局が建ち並んでいた。およそ2ヘクタールに及ぶ



2棟のビルの名称は、「大手町プレイスウエストタワー」と「大手町プレイスイーストタワー」

内装の仕上げが急ピッチで進むビルの中に入った。エントランスの広々とした吹き抜けには、見上げるほどの巨大な円柱が建ち、オフィスロビーとなる3階に通ずる大きなエスカレーターも圧巻だ。高層にあるオフィスフロアに足を踏み入れると、全面ガラス張りの窓からは、スカイツリーや神田の街並み、首都高の車の流れや列車が絶え間なく行き交う東京駅までが見渡せ、メガポリス東京の縮図を一望できる。

このプロジェクト全体の代表施行者として事業を進めているのがURだ。URは都市再生のプロデューサーとして全国で都市再生事業を進めている。大手町二丁目地区でも、法的手続きから計画、実際の整備に至るまで、多岐にわたる業務を担っている。

事業を推進するUR東日本都市再生本部都心業務部千代田区エリア計画課担当課長の岩崎信昭に、新しいビルの特徴を聞いた。「35階建てと32階建てのビルの3階以上に事務所、インターネットデータセンターが、低層部には店舗やカンファレンスセンターなど

が入ります。このビルの特徴は、地上2階から地下2階に、セントラルプロムナードという貫通通路を設け、自由に人々が行き交う往来空間としたことです。既存の大手町駅の地下ネットワークに接続する半公共的スペースとしてサンクンガーデンを配置し、大手町で働く人々の利便性の向上を図るとともに、憩いのオアシスになってほしいと願っています」

地域を1つにつなぐ橋も完成

ビルのほかにも、この地区には大きなトピックがある。隣接する日本橋川に、全長125mの歩行者専用の橋が架かることだ。この橋によって、いまままで分断されていた大手町地区と神田地区、日本橋地区がつながり、人の新しい流れが生まれることが期待されている。

じつは、この提案はURによるもの。単にビルを建てるだけでなく、公共貢献によって、建物価値の向上とあわせて、地域の利便性が向上するまちづくりを目指している。また、一時滞在施設など災害時の対応能力強化にも力を入れ

ている。

「このプロジェクトでは関係機関や企業が多いため、全員の要望をお聞きしながら、意見集約を図りつつ、スケジュール通り進めていくことを心掛けています。工事においても、地下にはライフラインなどがありますし、橋は首都高都心環状線と首都高八重洲線の合間を縫い、JRの高架橋も近接しています。重機や空間上の制限も厳しいなか、工事関係各課と協力し、安全対策に留意して行っています」と岩崎。

岩崎と共に業務を遂行している守屋昌宏は、URが東日本大震災の被災地で取り組んでいる復興事業に従事していたが、一昨年6月から、このプロジェクトに参加した。「直前まで宮城県女川町の震災復興を手掛けていたのですが、復興とはまた違う大変さがあります。大手町の中でこれだけの規模のオフィスビルを作る経験はなかなかできませんし、日頃から多数の課と綿密な連携をとりながら仕事を進めています」

守屋が言うように、今回の現場では計画業務や基盤整備に係る調

整、実際に工事監理をする工事関係各課などが一体となって連携。まさにURの知恵と技術、経験を結集しての大事業になった。

URはまた、この大手町地区で、企業の活動を中断することなく複数の建物を連鎖的に建て替える「連鎖型都市再生プロジェクト」の計画策定から参加。公平・中立な立場を生かしてまちの再生に力を注いでいる。

「8月の竣工まで目前のことに集中しているので、いまはまだ完成したときの自分の姿が想像できませんね。きっと一緒に頑張ってきた仲間と喜びあって、ほっとするのでしょう。その瞬間が楽しみです」と岩崎。新たに架かる橋は、かつて同じ地に存在した川の名を取って「竜閑さくら橋」と名付けられ、3月23日に開通。ツインタワービルも「大手町プレイス」の名の元、8月に竣工を迎える。新しく生まれ変わるまちのこれからが楽しみだ。

街に、ルネッサンス

UR 都市機構

一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます

【企画制作】新潮社